

平成31年度から使用する広島市立中学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔特別の教科 道徳〕 種目〔道徳〕

平成31年度から使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [ 特別の教科 道徳 ] 種目 [ 道徳 ]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、「国際平和文化都市」を都市像とし、被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基底として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自他共に大切にし、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を育て、自立して行動する力を養うことを教育の原点とし、広島の子どもたちが、「心身ともにたくましく思いやりのある人」として、その可能性を最大限に発揮する教育を推進している。道徳教育においては、平成22年度に策定した「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」を活用して、指導方法を工夫し、学校教育全体を通じた道徳教育の充実を図るとともに、平成27年度には「広島市道徳教育プログラム」として改訂し、より一層の充実を図る取組を進めてきた。
- 本市の生徒は、全国学力・学習状況調査や「基礎・基本」定着状況調査の質問紙から、自尊意識・規範意識等が全国平均よりも高く、自分を大切にする気持ちや、規則を守ろうとする態度が身に付いていることがうかがえるが、集団の中で人を思いやって動くなど、コミュニケーション能力の定着に課題が見られる。また、いじめの認知件数は、学年を追うごとに増加しており、いじめの問題に対応するためのより実効性のある力を身に付けさせる必要がある。
- 道徳の時間の指導については、教育委員会が指定校において実施する「道徳の授業力パワーアップ研修」等を通して、道徳科がめざす「考え、議論する」道徳の指導方法について周知するよう取組を進めているが、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる「考える道徳」「議論する道徳」の実現は十分ではない。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	①道徳科の学び方の示し方 ②主題名等の示し方
<主体的に学習に取り組む工夫>	③問題解決的な学習を取り入れた工夫 ④体験的な学習を取り入れた工夫 ⑤道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥取り扱う内容項目数 ⑦いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方
<内容の表現・表記>	⑧教材の内容を理解させる工夫
<言語活動の充実>	⑨考えることや議論することが活発に行われるための工夫 ⑩考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

### 3 各教科書の特徴及び意見

#### 1 基礎・基本の定着

##### (1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、折り込み見開き1ページで「話し合いの手引き」として、「話し合いのときの約束」を示すとともに、折り込み見開き3ページで「道徳の授業はこんな時間に」として、道徳科の学習の流れをイラスト等で示している。

##### (2) 主題名等の示し方

- 各学年、教材ごとに、教材名の横に主題名を示している。また、各学年の巻頭には、見開き2ページで、目次に主題名と教材名を示している。
- 各学年の巻頭に、見開き2ページで「一年間で学ぶこと」として、4つの視点ごとに1年間に学ぶ教材名と内容項目を示し、頑張りたいことを書く欄を1箇所設けている。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を色とマークで示している。
- 各学年の巻末「テーマでふり返ろう」に、教材と関連する現代的な課題を、6つのテーマで示している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### (1) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「考えてみよう!」、「Action (アクション) !」に、複数の発問を示し、問題解決的な発問を示している。
- 各学年、いじめや命の大切さに関わる教材について2教材を連続で扱うとともに、その問題解決に向けて、学級全体で話し合うことができるページを設けている。

##### (2) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、直前の教材に関連した体験的な学習を促す教材を掲載するとともに、動作や演技に関するマーク「Action (アクション) !」を、目次及び該当のページに示している。
- 【体験的な学習の例】
  - ・ 『決まり』を守る社会を創るために、あなたにもできること  
(第2学年) C 遵法精神、公德心
  - ・ 「許さない心」を読んで、役を交代しながらたばこを吸っている生徒に声をかける場面を演じる。
  - ・ 演じて気付いたことや感じたこと、また、自身の行動に照らして、改めて考えた行動を演じる。

##### (3) 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 各学年、各教材の終わり「考えてみよう」に、自己の生き方につなげる発問を示している。
- 各学年の巻末に、切り離し可能で期ごとに記入できる「自分の学びをふり返ろう」のページを設けている。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を印、色で示すとともに、関連する教科も印で示している。
- 学習過程で思ったことや考えたことを整理する「つぶやき」の欄を設けている。
- 教材で学習した内容を広げるためのコラム「Plus」のページを設けている。
- 【発問の例】
  - ・ 「二通の手紙」  
(第3学年) C 遵法精神、公德心
  - ・ 元さんがはれはれとした顔で職場を去ることができたのは、なぜだろう。
  - ・ 社会の中で規則や決まりを守ることが大切なのはなぜだろう。
- 【発問の例】
  - ・ 「足袋の季節」  
(第3学年) D よりよく生きる喜び
  - ・ おばあさんの死を知り、「無性に自分に腹が立ってしやうがなかった。」のはなぜだろう。
  - ・ 過ちや失敗に気づいたとき、人間としてどう行動することが必要だろう。
- 広島に関わりのある人物や題材を扱っている。  
(教材数：4)

### 3 内容の構成・配列・分量

#### (1) 取り扱う内容項目数

- 総ページ数
  - ・ 1年：188
  - ・ 2年：196
  - ・ 3年：196
- 各内容項目の数

	A	B	C	D	計
1	7	7	14	7	35
2	7	7	14	7	35
3	7	7	14	7	35

A：主として自分自身に関すること（5）  
 B：主として人との関わりに関すること（4）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること（9）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する  
 こと（4）

- 判型 AB 判

#### (2) いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、いじめ問題については、3つの教材で構成し、「いじめのない世界へ」と目次に示すとともに、巻末「テーマでふり返ろう」に、「人権・いじめ」として示している。
- いじめの問題について、読み物教材に加え、マンガの教材を掲載している。
- 各学年の巻末「テーマでふり返ろう」に、教材と関連する現代的な課題を、6つのテーマで示している。

### 4 内容の表現・表記

#### (1) 教材の内容を理解させる工夫

- 各学年、4つの視点を色分けしたマークで示している。
- 各学年、「アクション」、「プラス」マークを設定し、「アクション」では、役割演技などを取り入れた学習、「プラス」では、教材で学習した内容を広げるためのコラムを掲載している。
- 各学年、「Dマーク」「教科関連マーク」を設定し、「Dマーク」では、関連するデジタルコンテンツ、「教材関連マーク」では、関連して取り扱える教科を示している。
- 各学年、「考えてみよう」「つぶやき」のマークを設定し、「考えてみよう」では、教材文の終わりに問いを設定し、「つぶやき」では、思ったことや考えたことなどを教科書に書き込む欄を設けている。
- 各学年、キャラクター「考えタイガー」を設定し、目次や「アクション」等で学習の進め方を示している。
- 写真・挿絵は多様なタッチや色合いのものが使用されている。
- 教材ごとの挿絵（単位：教材）
  - ・ 写真のみ：10
  - ・ イラストのみ：62（内漫画：1）
  - ・ 写真とイラスト：33
  - ・ 挿絵なし：0

### 5 言語活動の充実

#### (1) 考えることや議論することが活発に行われるための工夫

- 各学年の巻頭「話し合いの手引き」に、話し合いの意義やポイントを示している。
- 各学年の巻末に、話し合いの内容を整理するホワイトボード用紙を収録している。また、切り取り式の付録として、「心情円」を設けている。
- 各学年、各教材の終わり「考えてみよう！」に、教材における話し合いを促す発問を示している。

#### (2) 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

- 各学年、教材ごとに、自分の考え等を記入する「つぶやき」という空白欄を設けている。また、問題解決的な学習及び体験的な学習を扱った教材に、考えたことや振り返ったことについて記入する欄を設けている。

- 各学年の巻末「自分の学びをふり返ろう」に、学期ごとに、授業の取り組みを振り返って4段階で記入する欄、心に残った教材や授業で学んでよかったこと、来期に取り組みたいこと等を記録する欄を設けている。

## 意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書の特徴である、巻頭において道徳科の学び方及び内容を分かりやすく示していることや、巻末に学期ごとの振り返りを設けていることは、生徒が学習への見通しを持つとともに、道徳的価値を自分のこととして捉え、今後の生き方につなげる上での手がかりとなっている。また、いじめや命の大切さに関わる教材を連続で扱い、その問題解決に向けて学級で話し合う活動を設定していることは、生徒がいじめの問題などに、主体的に対処することができるより実効性のある力を育成するという本市の生徒の課題に対応することができるものである。さらに、巻頭に話し合いの意義やポイントを示すとともに、巻末に話し合いの内容を整理するためのホワイトボードや切り取り式の「心情円」を設けていることは、「考える道徳」「議論する道徳」の実現を目指す本市の実態に対応することができるものである。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、目次の下部に見開き2ページで、「道徳の学習を始めよう！」として、「教材に出会ったとき」「考え、議論するために」「振り返る」の3つの学習の流れについて、学習の進め方や、態度などの留意点を示している。
- 各学年の巻頭に、見開き2ページで「学級づくり」として、学級集団の構築をねらったグループワークの進め方等を示している。

### (2) 主題名等の示し方

- 各学年、教材ごとに、教材名の横に主題名を示している。
- 各学年、教材ごとに、教材名の横に内容項目を示している。また、巻末「教材一覧」に、内容項目をキーワードとして示している。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を色とマークで示している。
- 各学年、教材ごとに、現代的な課題を、10種類のマークで示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「学びに向かうために」に、複数の発問を示し、問題解決的な発問を示している。

### (2) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「学びに向かうために」のコーナーに、発問を示し、役割演技を促している。
- 【体験的な学習の例】
  - ・ 「茂の悩み」  
(第2学年) B 相互理解、寛容
  - ・ 四人組になって、先発メンバーについての不満を言う一年生と茂、その茂に意見を言う浩二と信一郎の役を演じて場面を再現する。
  - ・ 稔と正夫が練習している姿を見た茂が、何も言わないで帰ることにした理由を話し合う。

### (3) 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 各学年、各教材の終わり「見つめよう」に、自己の生き方につながる発問を示している。
- 各学年、「一年間の振り返り」のページを巻末に、「学びの記録」のページを期ごとに設けている。
- 各学年、教材ごとに、教材名の横に主題名と内容項目を示すとともに、4つの視点を印、色で示している。
- 学習過程で思ったことや考えたことを整理する「振り返ろう」の欄を設けている。
- 教材で学習した内容を広げるためのコラム「心の扉」のページを設けている。
- 【発問の例】
  - ・ 「二通の手紙」  
(第2学年) C 遵法精神、公德心
  - ・ なぜ元さんは、規則を知っていながら姉弟を園内に入れたのだろうか。
  - ・ 二通の手紙を見比べながら、「新たな出発ができそうだ。」と言った元さんは、どんなことを考えていたのだろうか。話し合ってみよう。
  - ・ きまりは何のためにあるのだろうか。考えたことをノートなどに書いてみよう。
- 【発問の例】
  - ・ 「足袋の季節」  
(第3学年) D よりよく生きる喜び
  - ・ おばあさんから四十銭を受け取った「私」の心の様子を、自責の念からの声と甘い考えからの声の役割に分かれて言葉を出し合い、感じてみよう。
  - ・ 「私」が、「死というものが、こんな絶対なものか」と感じたわけについて話し合ってみよう。
  - ・ 自分に恥じない、誇りある生き方をするには、どのような心をもっていたいか。ノートなどに書いてみよう。

- 広島に関わりのある人物や題材を扱っている。  
(教材数：2)

### 3 内容の構成・配列・分量

#### (1) 取り扱う内容項目数

- 総ページ数
  - ・ 1年：226
  - ・ 2年：230
  - ・ 3年：226
- 各内容項目の数

	A	B	C	D	計
1	7	6	16	6	35
2	7	6	16	6	35
3	7	6	16	6	35

A：主として自分自身に関すること（5）  
 B：主として人との関わりに関すること（4）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること（9）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する  
 こと（4）

- 判型 AB 判

#### (2) いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、いじめ問題については、2～4つの教材で構成し、「いじめの防止」と目次に示している。
- いじめの問題について、読み物教材に加え、マンガの教材を掲載している。
- 各学年、教材ごとに、現代的な課題を10種類のマークで示している。

学校図書

### 4 内容の表現・表記

#### (1) 教材の内容を理解させる工夫

- 各学年、4つの視点ごとに色分けしたマークで示している。
- 各学年、活動のマーク「考えよう」「見つめよう」「意見交換」を設定し、教材文の終わり「学びに向かうために」に、それぞれの活動を促す発問を示している。
- 各学年、「心の扉」を4つの視点ごとにマークで示し、道徳的価値を深めたり、多面的・多角的なものの見方や考え方を促したりするページを設けている。
- 各学年、鉛筆のマークを設定し、「学びの記録」等、考えや振り返りを書き込む欄を示している。
- 各学年、「振り返ろう」のマークを設定し、各教材の最後に学びを記録する欄を示している。
- 写真・挿絵は多様なタッチや色合いのものが使用されている。
- 教材ごとの挿絵（単位：教材）
  - ・ 写真のみ：21
  - ・ イラストのみ：61（内漫画：3）
  - ・ 写真とイラスト：23
  - ・ 挿絵なし：0

### 5 言語活動の充実

#### (1) 考えることや議論することが活発に行われるための工夫

- 各学年の巻頭「考え、議論するために」に、話し合いのポイントを示している。
- 各学年、話し合いができる学級集団づくりのための「学級づくり」のページを設けている。
- 各学年、各教材の終わり「学びに向かうために」に、教材における話し合いを促す発問を示している。

#### (2) 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

- 各学年、教材ごとに、自分の考え等を記入する「振り返ろう」という空白欄を設けている。また、学習した内容や自分や友達の考え等を記入する「学びの記録」という欄を、年3回分設けている。
- 各学年の巻末「一年間の振り返り」に、自分の考えや行動の変化、これから伸ばしたいと思うことを記入する欄を設けている。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 道徳科の学び方の示し方

- 第1学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳って、どんなふうに学習したらいいの？」として、道徳科の学び方をイラスト等で示している。また、各学年の巻頭に、見開き2ページで、「～の道徳が始まる」として、道徳の学習を通して考えたいことを6つ、教材名や挿絵とともに示している。

### (2) 主題名等の示し方

- 各学年、教材ごとに、教材の冒頭に、問いの形で学習のねらいを示している。
- 各学年の巻末に、教材名と内容項目を示している。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を色で示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「学びの道しるべ」に、複数の発問を示し、問題解決的な発問を示している。

### (2) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、「やってみよう」のページに、直前の教材に関連した体験的な学習を促す教材を掲載するとともに、目次に該当するページを示している。
- 【体験的な活動の例】
  - ・ 「譲る気持ちはあるのに……」  
(第2学年) B 思いやり、感謝
  - ・ 乗り物の中で、大きな荷物を持っている人に席を譲るときや、お年寄りに席を譲るときの声掛けを演じる。
  - ・ 朝、道で掃除をしている隣のおじいさんや、一緒に登校するため玄関先で待っている友達へあいさつする場面を演じる。
  - ・ 演じた後、思いや感謝を形にするには、何が必要か考える。

### (3) 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 各学年、各教材の終わり「学びの道しるべ」に、自己の生き方につながる発問を示している。
- 各学年の巻末に、1年間の学習の振り返りが記入できる「道徳の学びを記録しよう」のページを設けている。
- 各学年、教材ごとに、ページの左上にも教材名を示すとともに、教材ごとに、4つの視点を色で示している。
- 【発問の例】
  - ・ 「二通の手紙」  
(第3学年) C 遵法精神、公德心
  - ・ 元さんがはればれとした顔で身のまわりを片づけ、職場を去っていったのはなぜだろう。
  - ・ 姉弟を入園させた元さんの判断を、あなたは思うだろうか。
  - ・ きまりや法は、なんのためにあるのだろう。
- 【発問の例】
  - ・ 「足袋の季節」  
(第3学年) B 思いやり、感謝
  - ・ 「私」が「むしように自分に腹が立った」のは、どうしてだろう。
  - ・ 「私」が「あのおばあさんが、私にくれた心を、今度は、私が誰かにさしあげなければ」と考えたのは、どんな気持ちからだろう。
  - ・ 人が人を思う気持ちについて、自由に話し合ってみよう。
- 広島に関わりのある人物や題材を扱っている。  
(教材数：1)



### 3 内容の構成・配列・分量

#### (1) 取り扱う内容項目数

- 総ページ数
  - ・ 1年：200
  - ・ 2年：184
  - ・ 3年：184
- 各内容項目の数

	A	B	C	D	計
1	8	8	12	7	35
2	7	7	16	5	35
3	5	5	16	9	35

A：主として自分自身に関すること（5）  
 B：主として人との関わりに関すること（4）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること（9）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する  
 こと（4）

- 判型B5判

#### (2) いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、いじめ問題については、2～3つの教材で構成し、「いじめや差別のない社会に」と巻頭に示している。
- いじめの問題について、読み物教材に加え、イラストが中心の教材を掲載している。

### 4 内容の表現・表記

#### (1) 教材の内容を理解させる工夫

- 各学年、4つの視点を色分けした丸印で示している。
- 各学年、「学びの道しるべ」「やってみよう」マークを設定し、「学びの道しるべ」では、みんなで話し合ったり、様々な立場から考えたり、考えを広げ深める学習「やってみよう」では、場面を演じたり、よりよい行いの練習をしたりして、学びを深める活動を示している。
- 各学年、4つの視点で色分けした「問い」マークを設定し、意識付け等の問いを示している。
- 写真・挿絵は多様なタッチや色合いのものが使用されている。
- 教材ごとの挿絵（単位：教材）
  - ・ 写真のみ：40
  - ・ イラストのみ：50（内漫画：1）
  - ・ 写真とイラスト：11
  - ・ 挿絵なし：4

### 5 言語活動の充実

#### (1) 考えることや議論することが活発に行われるための工夫

- 第1学年の巻頭「道徳って、どんなふうに学習したらいいの？」において、話し合いの意義やポイントを示している。
- 各学年、各教材の終わり「学びの道しるべ」に、教材における話し合いを促す発問を示している。

#### (2) 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

- 各学年、問題解決的な学習及び体験的な学習を扱った教材に、自分の考え等を記入する空白欄を設けている。
- 各学年の巻末「道徳の学びを記録しよう」に、印象に残った教材を記録する欄を設けている。また、新しい発見があった教材に色を塗る欄や、次年度に向けた振り返りをする欄を設けている。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 道徳科の学び方の示し方

- 第1、2学年は、巻頭『対話』で広がる、道徳の時間」に「対話」の意義を、第3学年は、「道徳の時間に学ぶこと」に4つの視点及び内容項目を、イラスト等を基に見開き2ページで示している。
- 各学年の巻末に、見開き2ページで「どうして『道徳』を学ぼうだろうか?」として、道徳を学ぶ意義を内容項目やイラストで示している。
- 各学年の巻頭「本書で学ぶ皆さんへ」に、主体的に学ぶための構成の工夫について、5つの要素を示している。

### (2) 主題名等の示し方

- 各学年、各教材の終わりに、「学びのテーマ」として、何を学ぶのかを示している。
- 各学年、教材ごとに、教材名の横に内容項目を示している。また、各学年の巻末に、教材名・内容項目・現代的な課題等・他教科等との関連を示している。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点をマークで示している。
- 各学年、巻頭に、複数の教材を有機的に結び付けるユニットのテーマを示している。また、各学年の巻末「テーマ別教材一覧」に、教材と関連する現代的な課題を、7つのテーマで示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わりに複数の発問を示し、問題解決的な発問を示している。

### (2) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、シーズン1の終わり「コラム 人と人との関係づくり」に、人とよりよい関係を築くための「こつ」を身につけさせる取組について、体験的な学習を促すページを設けている。
- 【体験的な活動の例】
  - ・ 「友達とよい関係を築くには」  
(第1学年) 内容項目を示していない
  - ・ 体育祭の練習に二回続けて遅刻してきた人たちへの対応を演じる。
  - ・ 5つのタイプの例を参考にして演じる。
  - ・ 逆の立場に自身になった場合の対応について考える。
  - ・ お互いに良好な関係を築くための方法について考える。

### (3) 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 各学年、各教材の終わり「考える観点」「つなげよう」に、自己の生き方につながる発問を示している。
- 各学年の巻末に、年間の学習を4つに分け、学習のまとめりに記入できる「学びの記録」のページを設けている。
- 各学年、教材ごとに、教材名の横に主題名を示し、4つの視点を印、学習のまとめりを色で示すとともに、巻末に他教科との関連表を示している。
- 学習過程で思ったことや考えたことを整理する「私の気づき」の欄を設けている。
- 教材で学習した内容を広げるためのコラム「COLUMN」、「あなたへのメッセージ」のページを設けている。
- 【発問の例】
  - ・ 「二通の手紙」  
(第3学年) C 遵法精神、公德心
  - ＜考える観点＞
    - ・ 元さんは、規則を知っていながら、どうして姉弟を動物園の中に入れてのだろう。
    - ・ 元さんが「この年になって初めて考えさせられた」のは、どんなことだろう。
    - ・ 規則は、何のためにあるのだろう。
  - ＜見方を変えて＞
    - ・ 懲戒処分を受け、晴れ晴れとした顔で辞職した元さんを見て、佐々木は、どんなことを思っただろう。

<つなげよう>

- ・ あなたが法やきまりを守るのはどうしてか、考えてみよう。
- ・ 社会参画のコラム「社会の一員として」を読んでみよう。

○ 【発問の例】

- ・ 「足袋の季節」  
(第3学年) D よりよく生きる喜び

<考える観点>

- ・ 「籠を見て、私は泣けて、泣けて、どうしようもなかった。」とき、「私」は、どんなことを思っていたのだろう。
- ・ 「私」は、どうして「あのおばあさんが私にくれた心を、今度は、私が誰かにさしあげなければならない」と思うのだろう。
- ・ この物語から、あなたはどんなことを学んだだろう。

<見方を変えて>

- ・ おばあさんは、どんな気持ちで「ふんばりなさいよ。」と、「私」に言ったのだろう。
- ・ もし、生きているおばあさんに「私」が再会できたら、おばあさんは「私」にどんな言葉をかけただろう。

<つなげよう>

- ・ 自分の弱さに気がついたとき、あなたは、どんなふうにその弱さと向き合っていくだろうか。

- 広島に関わりのある人物や題材を扱っている。  
(教材数：1)

3 内容の構成・配列・分量

(1) 取り扱う内容項目数

- 総ページ数
  - ・ 1年：230
  - ・ 2年：230
  - ・ 3年：238
- 各内容項目の数

	A	B	C	D	計
1	9	7	12	7	35
2	9	7	12	7	35
3	9	7	12	7	35

A：主として自分自身に関すること（5）  
 B：主として人との関わりに関すること（4）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること（9）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する  
 こと（4）

- 判型 B5判

(2) いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、いじめ問題については、6～9つの教材とコラムで構成し、コラムは「いじめについて考える」と目次に示している。また、巻末「テーマ別教材一覧」に、「いじめを許さないために」として示している。
- いじめの問題について、読み物教材に加え、マンガの教材を掲載している。
- 各学年の巻末「テーマ別教材一覧」に、教材と関連する現代的な課題を、7つのテーマで示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- 各学年、4つの視点をマークで示している。また、1年間を4つのシーズン（まとまり）に分け、教材やユニットのテーマと関連させて示している。
- 各学年、「コラム」マークを設定し、現代的な課題について考えることができる内容を示している。
- 各学年、「学びのテーマ」マークを設定し、教材の終わりに、「考える観点」、「見方を変えて」、「つなげよう」、「私の気づき」等、学びの手引きを示している。
- 写真・挿絵は多様なタッチや色合いのものが使用されている。
- 教材ごとの挿絵（単位：教材）
  - ・ 写真のみ：18

- ・ イラストのみ：70（内漫画：3）
- ・ 写真とイラスト：19
- ・ 挿絵なし：1

## 5 言語活動の充実

### (1) 考えることや議論することが活発に行われるための工夫

- 第1、2学年は、巻頭の『対話』で広がる、「道徳の時間」において、話し合いの意義やポイントを示している。
- 各学年、教材の終わりに複数の発問を示し、<見方を変えて><つなげよう>として、視点を変えて、多面的・多角的に考える学習を促す発問を示している。
- 各学年、コラム「考えよう」に、内容における話し合いを促す発問を示している。

### (2) 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

- 各学年、教材ごとに、自分の考え等を記入する「私の気づき」という空白欄を設けている。
- 各学年の巻末に、シーズンごとに自分の学びを振り返り、自分の考えを書き留めておくことができる「学びの記録」の欄を設けている。

## 意見

光村図書の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

光村図書の教科書の特徴である、巻頭・巻末で「対話」や道徳を学ぶ意義を示していること、各教材の終わりに「学びのテーマ」として、何を学ぶのかを示していることは、生徒が道徳科の学習に見通しを持つことや、「考える道徳」「議論する道徳」の実現を目指すことに対応することができるものである。また、各教材の終わりに設けた複数の発問に、<見方を変えて><つなげよう>として、生徒が多面的・多角的に考えることができる発問を示していることや、教材ごとの振り返りの欄及び年間の学習を4つのまとまりで分けた振り返りの欄を設けていることは、活発な議論を促すとともに、自己の学びを振り返り、今後の生き方につなげることの手がかりとなる。さらに、いじめ問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方について、巻頭の目次にいじめ問題を扱ったコラムを示していることや、巻末「テーマ別教材一覧」に「いじめを許さないために」と示していることは、いじめの問題などに、主体的に対処することができるより実効性のある力を育成するという、本市の生徒の課題に対応することができるものである。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳科で学ぶこと」として、4つの視点ごとに1年間に学ぶ内容項目を示すとともに、「道徳科での学び方」として、道徳科の学び方をイラスト等で示している。
- 別冊「道徳ノート」の巻頭に、目次の隣に「道徳ノートの使い方」をイラスト等で示している。

### (2) 主題名等の示し方

- 各学年、教材ごとに、教材名の上に主題名を示している。
- 各学年の巻末に、教材名・内容項目・主題名・教科等との関連等を示している。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を、色とマークで示している。
- 各学年の巻頭「この教科書で学ぶテーマ」に、教材と関連する現代的・社会的課題を、11のテーマで示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「自分に+1」やコラム「プラットホーム」に、問題解決的な発問を示している。
- 各学年、問題解決的な学習に適した教材について、目次の中で印をつけて示している。また、その教材の終わりには学習の流れを示している。

### (2) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、直前の教材に関連した体験的な学習を促すページを設けるとともに、動作や演技に関するマークを、目次及び該当のページに示している。
- 【体験的な活動の例】
  - ・ 「近くにいた友」  
(第1学年) B 友情、信頼
  - ・ オサムを攻撃する差出人不明のメールを見た時のオサムの気持ちを考える。
  - ・ オサムが信也に寄ってきた場面で、セリフを考えながらロールプレイを行う。
  - ・ ロールプレイを行った人へインタビューを行う。
  - ・ 雄一から話を聞き、信也の家へ向かうオサムの気持ちを考える。

### (3) 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 各学年、各教材の終わり「自分に+1」に、自己の生き方につながる発問を示している。
- 各学年、別冊「道徳ノート」に、1年間の学習の振り返りが記入できる「道徳の学習で学んだことを書いてみよう」のページを設けている。
- 各学年、教材ごとに、教材名とともに主題名を示し、4つの視点を印と色で示すとともに、巻末に他教科との関連表を示している。
- 学習過程で思ったことや考えたことを整理する欄が別冊「道徳ノート」にある。
- 教材で学習した内容を広げるためのコラム「プラットホーム」、「参考」のページを設けている。
- 各学年、別冊「道徳ノート」に保護者の記入欄を設けている。
- 【発問の例】
  - ・ 「二通の手紙」  
(第3学年) C 遵法精神、公德心  
<問題をつかもう。>
  - ・ 「二通の手紙」を読んで、何が問題だと考えるかまとめよう。  
<自分で考えてみよう。>
  - ・ 元さんは、二通の手紙を読んだとき、それぞれどんなことを考えたのだろう。  
※ 二人の子どもの母親からの手紙を読んだとき。  
※ 「懲戒処分」の通告を読んだとき。  
<問題について考え、議論しよう。>
  - ・ 元さんが、初めて考えさせられたこととは何か考え、話し合おう。
  - ・ 次のことも話し合ってみよう。

- ※ 法やきまりは、なんのためにあるのか。
- ※ 法やきまりがなかったら、どうなるのか。

- 【発問の例】
  - ・ 「足袋の季節」  
(第2学年) D よりよく生きる喜び  
<問題をつかもう。>
  - ・ 「私」はどうしてこのような行動をしたのだろうか。何が問題だったのか考えてみよう。  
<自分で考えてみよう。>
  - ・ 「私」は悪いと思っても、なぜ「うん」とうなずいて四十銭を受け取ってしまったのだろうか。  
<問題について考え、議論しよう。>
  - ・ 「私」の苦しみやそれを乗り越えていこうとする生き方から、「人が強く気高く生きる」ということについて話し合い、自分の考えをまとめよう。
- 広島に関わりのある人物や題材を扱っている。  
(教材数：1)

### 3 内容の構成・配列・分量

#### (1) 取り扱う内容項目数

- 別冊がある。  
別冊は、教科書と同じ教材の配列で、学習過程における発問と、それに対する考えを記入する欄を設けている。
- 総ページ数 (別冊)
  - ・ 1年：198 (42)
  - ・ 2年：198 (42)
  - ・ 3年：198 (42)
- 各内容項目の数

	A	B	C	D	計
1	7	6	15	7	35
2	7	6	15	7	35
3	7	6	15	7	35

A：主として自分自身に関すること (5)  
 B：主として人との関わりに関すること (4)  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること (9)  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する  
 こと (4)

- 判型B5判 (別冊 B5判)

#### (2) いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、いじめ問題については、2～7つの連続した教材とコラムで構成し、「いじめと向き合う」と目次に示している。
- いじめの問題について、読み物教材に加え、イラストが中心の教材を掲載している。
- 各学年の巻頭「この教科書で学ぶテーマ」に、教材と関連する現代的・社会的課題を、11のテーマで示している。

### 4 内容の表現・表記

#### (1) 教材の内容を理解させる工夫

- 各学年、4つの視点を色分けしたマークで示している。
- 各学年、「プラットフォーム」「参考」のマークを設定し、「プラットフォーム」では学習した内容を広げ、考えや視野を広げるコラム、「参考」では学習した内容を理解する助けになるコラムを掲載している。
- 各学年、「考えてみよう」「自分に+1」のマークを設定し、「考えてみよう」では考えたり議論したりしたい内容、「自分に+1」ではこれからの自分にどう生かすかを考える内容を示している。
- 各学年、問題解決的な学習、体験的な学習のマークを設定している。
- 各学年、「デジタルマーク」を設定し、ウェブサイトですぐに役立つ資料の提供があることを示している。
- 写真・挿絵は多様なタッチや色合いのものが使用されている。
- 教材ごとの挿絵 (単位：教材)

- ・ 写真のみ：16
- ・ イラストのみ：56（内漫画：1）
- ・ 写真とイラスト：33
- ・ 挿絵なし：0

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論することが活発に行われるための工夫

- 各学年の巻頭「道徳科での学び方」に、話し合いの意義やポイントを示している。
- 各学年、別冊「道徳ノート」に、話し合いの内容を整理する特設の欄を6回分設けている。
- 各学年、教材の終わり「学習の進め方」のページに、教材における話し合う学習活動を示している。

(2) 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

- 各学年、別冊「道徳ノート」に、「自分への振り返り」について4項目5段階で記入する欄をページの下部に設けている。また、「道徳ノート」の巻末に、話し合いの内容をメモするページや道徳の学習で印象に残ったこと等を記入する、保護者記入欄付きの振り返りのページを設けている。

意見

日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

日本文教出版の教科書の特徴である、各学年2～7つのいじめ問題を扱った教材とコラムを掲載していることや、目次に「いじめと向き合う」と示していることは、いじめの問題などに、主体的に対処することができるより実効性のある力を育成するという、本市の生徒の課題に対応することができるものである。また、巻頭に、教材と関連する現代的・社会的課題を11のテーマで示していることや、各教材の終わりに問題解決的な学習を促す発問を示していることは、教材を様々な切り口から捉えるとともに、答えが定まっていない問題を、多面的・多角的な視点から考え、他者と協働して問題を解決しようとする実践意欲・態度を育てる手がかりとなる。さらに、別冊「道徳ノート」に、話し合いの内容を整理する特設の欄を設けていること、「自分への振り返り」について4項目5段階で記入する欄を設けていることは、「考える道徳」「議論する道徳」の実現をめざす本市の課題に対応したものであり、道徳科の目標である、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めることにつながるものである。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳で学ぶこと・考えること」として、「考えを深める四つのポイント」をイラスト等で示している。

### (2) 主題名等の示し方

- 各学年とも、主題名をあえて示していない。
- 各学年の巻頭「よりよく生きるための22の鍵」に、教材名と内容項目を示している。また、各学年の巻末に、教材名・内容項目・他の各教科等の関連例を示している。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を、色別のラインで示している。
- 各学年の巻頭「様々なテーマで学ぼう」に、教材と関連する現代的な課題を、6つのテーマで示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「深めよう」、「クローズアップ」に、問題解決的な発問を示している。

### (2) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、「深めよう」の「やってみよう」に、直前の教材に関連した体験的な学習を促すページを設けている。
- 【体験的な活動の例】
  - ・ 「釣りざおの思い出」  
(第1学年) A 節度、節制
  - ・ 2つの心の立場に立つ人を決めて、「私」の行いの決定に迫るようにお互いに説得してみよう。演じる様子を見る人も決めておく。
  - ・ 立場を変え、交代しよう。
  - ・ それぞれの役を演じたり見たりしながら、考えたことを話し合おう。

### (3) 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 各学年、教材の終わりや特設ページ「深めよう」に、自己の生き方につながる発問を示している。
- 各学年の巻末に、1年間の学習の振り返りが記入できる「心の四季」のページを設けている。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を色で示すとともに、巻末に他教科との関連表を示している。
- 学習過程で思ったことや考えたことを整理する欄を印とともに設けているものがある。
- 教材で学習した内容を広げるためのコラム「クローズアップ」のページを設けている。
- 【発問の例】
  - ・ 「二通の手紙」  
(第3学年) C 遵法精神、公德心
  - ・ 二通の手紙を前に、元さんが考えさせられたこととはどのようなことだろう。
  - ・ この話から、どのようなことを自分に生かせるだろうか。
- 【発問の例】
  - ・ 「足袋の季節」  
(第2学年) D よりよく生きる喜び
  - ・ お婆さんが「私」にくれた心とは何か、考えてみよう。

## 3 内容の構成・配列・分量

### (1) 取り扱う内容項目数

- 総ページ数
  - ・ 1年：182
  - ・ 2年：186
  - ・ 3年：186



○ 各内容項目の数

	A	B	C	D	計
1	8	7	13	7	35
2	8	7	12	8	35
3	8	8	12	7	35

A：主として自分自身に関すること（5）  
 B：主として人との関わりに関すること（4）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること（9）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する  
 こと（4）

○ 判型A4判

(2) いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、いじめ問題については、4～6つの教材で構成し、「いじめをなくすために」と巻頭に示している。
- いじめの問題について、読み物教材に加え、マンガやイラストの教材を掲載している。
- 各学年の巻頭「様々なテーマで学ぼう」に、教材と関連する現代的な課題を、6つのテーマで示している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- 各学年、4つの視点を色分けして示している。
- 各学年、鉛筆のマークを設定し、自分の考えを記入する欄を設けている。
- 各学年、旗のマークを設定し、教材文の終わりに問いや活動を示している。
- 各学年、「クローズアップ」「クローズアッププラス」のマークを設定し、生きる上での考え方の選択肢を増やすページが掲載されている。
- 各学年、「深めよう」のマークを設定し、主体的に考えを広げ、深められるような発問を示している。
- 各学年、「情報モラル」のマークを設定し、情報モラルに関する教材のページを示している。
- 写真・挿絵は多様なタッチや色合いのものが使用されている。
- 教材ごとの挿絵（単位：教材）
  - ・ 写真のみ：16
  - ・ イラストのみ：47（内漫画：2）
  - ・ 写真とイラスト：42
  - ・ 挿絵なし：0

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論することが活発に行われるための工夫

- 各学年の巻頭「新しい扉を開く」に、話し合いの意義やポイントを示している。
- 各学年、「深めよう」のページに、「話し合おう」を設定し、グループでの話し合いの流れを示している。

(2) 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

- 各学年、問題解決的な学習及び体験的な学習を扱った教材、「クローズアップ」、「深めよう」に、自分の考え等を記入する空白欄を、設けている。
- 各学年、「マイプロフィール」、「深めよう」、「心の四季」に、自分の振り返りをする欄を設けている。また、第3学年は、「未来への扉」として、未来の自分への手紙を書く欄を設けている。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「自分を見つめよう—道徳の時間とは—」として、道徳科の時間について、学び方を5つ示している。

### (2) 主題名等の示し方

- 各学年、各教材の終わりに、目当てと問いで構成された「学習のてがかり」を示している。
- 各学年の巻末に、教材名と内容項目を示している。また、別冊「中学生の道徳ノート」に、内容項目の解説を示している。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を色別の点で示している。
- 各学年の巻末に、現代的な課題を示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「考える・話し合う」に、複数の発問を示し、問題解決的な発問を示している。
- 各学年、別冊「中学生の道徳ノート」に、問題解決的な発問を示している。

### (2) 体験的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「考える・話し合う」のコーナーに、発問を示し、体験的な学習につなげるよう促すページを設けている。
- 【体験的な活動の例】
  - ・ 「加奈子の職場体験」  
(第2学年) B 勤労
  - ・ これまでにあなたが体験したボランティア活動や福祉体験活動などを思い出し、働くことの意義を考えながら、自らの将来(進路選択や職業選択)について夢を描いてみよう。

### (3) 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 各学年、各教材の終わり「考える・話し合う」や別冊「中学生の道徳ノート」に、自己の生き方につながる発問を示している。
- 各学年、別冊「中学生の道徳ノート」の巻末に、1年間の学習の振り返りが記入できる「心のしおり」のページを設けている。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を色で示すとともに、「考える・話し合う」で学習の手がかりを示している。
- 学習過程で思ったことや考えたことを整理する欄が別冊「中学生の道徳ノート」にある。
- 教材で学習した内容を広げるためのコラム「thinking」のページを設けている。
- 【発問の例】
  - ・ 「二通の手紙」  
(第3学年) C 遵法精神、公德心
  - ・ 元さんはどう思って、姉弟を特別に入園させたのか。
  - ・ 二通の手紙を見比べて元さんが考えたことはなんだろう。
  - ・ 元さんはどうして晴れ晴れとした顔で身の回りの片づけをし、職場を去っていったのだろう。
  - ・ 規則に問題があったのか、それとも元さんの思いやりに問題があったのか、考えてみよう。
- 【発問の例】
  - ・ 「足袋の季節」  
(第2学年) D よりよく生きる喜び
  - ・ 「五十銭玉だったね?」といわれ、思わず「うん。」とうなずいたとき、筆者はどんな気持ちだったか。
  - ・ おばあさんの死を知って、筆者は泣きながらどんなことを考えていたのだろう。
  - ・ 自分に恥じない生き方、誇りある生き方とは、どのような生き方だろう。
- 広島に関わりのある人物や題材を扱っている。  
(教材数:1)

### 3 内容の構成・配列・分量

#### (1) 取り扱う内容項目数

- 別冊がある。  
別冊は内容項目ごとの配列で、学習内容を基に、実生活を見つめ直す内容となっている。
- 総ページ数 (別冊)
  - ・ 1年：184 (68)
  - ・ 2年：168 (68)
  - ・ 3年：164 (68)
- 各内容項目の数

	A	B	C	D	計
1	8	7	13	7	35
2	8	7	12	8	35
3	8	8	12	7	35

A：主として自分自身に関すること (5)  
 B：主として人との関わりに関すること (4)  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること (9)  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する  
 こと (4)

- 判型 AB 判 (別冊 AB 判)

#### (2) いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、いじめ問題については、1～2つの教材とコラムで構成している。
- 各学年、別冊「中学生の道徳ノート」で、いじめ問題について考えるページを設けている。
- 各学年の巻末に、現代的な課題を示している。

### 4 内容の表現・表記

#### (1) 教材の内容を理解させる工夫

- 各学年、4つの視点を色分けした、点の数で示している。
- 各学年、「考える・話し合う」「学習の手がかり」「考えを広げる・深める」のマークを設定し、教材文の終わりに目当てや問いを示している。
- 木の葉マークを設定し、各教材文の終わりに先人や著名人の言葉を掲載している。
- 各学年、「thinking」のマークを設定し、教材と関連した学びを深めるページを示している。
- 写真・挿絵は多様なタッチや色合いのものが使用されている。
- 教材ごとの挿絵 (単位：教材)
  - ・ 写真のみ：27
  - ・ イラストのみ：66
  - ・ 写真とイラスト：11
  - ・ 挿絵なし：1

### 5 言語活動の充実

#### (1) 考えることや議論することが活発に行われるための工夫

- 各学年の巻頭「自分を見つめよう—道徳の時間とは—」に、話し合いの意義やポイントを示している。
- 各学年、別冊「中学生の道徳ノート」に、話し合いの内容を整理する欄を4回分設けている。
- 各学年、各教材の終わり「考える・話し合う」に、「考えを広げる・深める」を設定し、教材における話し合いを促す発問を示している。

#### (2) 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

- 各学年、別冊「中学生の道徳ノート」に、内容項目ごとに自分を振り返ったり、自分の考えをまとめたりする欄を設けている。また、「中学生の道徳ノート」の巻末に、心に残っている授業・話し合い活動の記録・学習の記録を残す欄や、道徳の時間についての自己評価を5段階で記入するページ、内容項目ごとの振り返りを5段階で記入する折り込みページを設けている。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 道徳科の学び方の示し方

- 各学年の巻頭に、見開き2ページで、「道徳科って何を学ぶの?」として、4つの視点ごとに内容項目を示すとともに、多様な考えを知るための方法を6つ示している。
- 各学年の巻頭に、「教科書の使い方」を5つ示すとともに、自分自身について記入する欄を6項目設けている。

### (2) 主題名等の示し方

- 各学年の巻末「学習指導要領対応表」に、教材名と学習指導要領に書かれた内容項目を示している。
- 各学年、教材ごとに、4つの視点を色で示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 問題解決的な学習を取り入れた工夫

- 各学年、各教材の終わり「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」に、複数の問題解決的な発問を示し、問題解決的な発問を示している。

### (2) 体験的な学習を取り入れた工夫

- わかりやすい場面絵を掲載した上で、発問を示し、体験的な学習を促すページを設けている。
- 【体験的な活動の例】
  - ・ 「礼儀はなぜ必要なのか」  
(3学年) B 礼儀
  - ・ 次の三つの場面において、“最も礼儀正しい振る舞い”と“最も無礼な振る舞い”は何でしょうか。
    - ※ 初めて人に会う時
    - ※ 不注意で隣の家の窓ガラスを割って謝罪に行く時
    - ※ プレゼントを人からもらった時
  - ・ なぜ礼儀正しいことが大切だとされているのでしょうか。

### (3) 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫

- 各学年、各教材の終わり「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」、「話してみよう」、「書いてみよう」に、自己の生き方につながる発問を示している。
- 各学年の巻末「心の成長を振り返りましょう」に、1年間の学習の振り返りを記入できるページを設けている。
- 各学年、教材ごとに、ページの左上にも教材名を示すとともに、教材ごとに、4つの視点を色で示している。
- 教材で学習した内容を広げるためのコラム「もっと知りたい」等のページを設けている。
- 【発問の例】
  - ・ 「二通の手紙」  
(第2学年) C 遵法精神、公德心
    - ・ 二人の姉弟を入園させた元さんをどう思いますか。
    - ・ この年になって初めて考えさせられることとは、どんなことだったでしょうか。
    - ・ 元さんが晴れ晴れとした顔で身の回りを片付け、自ら職を辞し、職場を去って行ったのはどうしてでしょうか。
  - 【発問の例】
    - ・ 「足袋の季節」  
(第2学年) D よりよく生きる喜び
      - ・ わたしがおばあさんを小樽局にたずねたのはなぜでしょうか。
      - ・ 死が絶対なものであると感じたのは、わたしのどのような思いからでしょうか。
      - ・ あのおばあさんが、わたしにくれた心を今度は、わたしが誰かにさしあげなければならないと思えるようになったのはどうしてでしょうか。

## 3 内容の構成・配列・分量

### (1) 取り扱う内容項目数

- 総ページ数

- ・ 1年：194
  - ・ 2年：194
  - ・ 3年：194
- 各内容項目の数

	A	B	C	D	計
1	6	8	17	6	37
2	7	8	15	7	37
3	7	7	15	8	37

A：主として自分自身に関すること（5）  
 B：主として人との関わりに関すること（4）  
 C：主として集団や社会との関わりに関すること（9）  
 D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する  
 こと（4）

- 判型B5判

(2) いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

- 各学年、いじめ問題を扱った教材を掲載している。

4 内容の表現・表記

(1) 教材の内容を理解させる工夫

- 各学年、4つの視点を色分けして示している。
- 各学年、「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のマークを設定し、教材文の終わりに発問を示している。
- 各学年、教材文の終わりに、教材文と関連した特設ページを示すマークを設定している。
- 写真・挿絵は多様なタッチや色合いのものが使用されている。
- 教材ごとの挿絵（単位：教材）
  - ・ 写真のみ：43
  - ・ イラストのみ：49
  - ・ 写真とイラスト：19
  - ・ 挿絵なし：0

5 言語活動の充実

(1) 考えることや議論することが活発に行われるための工夫

- 各学年の巻頭「道徳科って何を学ぶの？」に、話し合いの意義やポイントを示している。
- 各学年、各教材の終わり「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」に、教材における話し合いを促す発問を示している。

(2) 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫

- 各学年の巻末に、自分の心の成長を振り返るページと、道徳の授業について振り返るページを設けている。

「平成31年度使用広島市立小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）の採択について（答申）」において意見を付された教科用図書一覧

番号	種 目	よりふさわしい	ふさわしい
1	国 語	東京書籍	光村図書
2	書 写	東京書籍	教育出版
3	社 会	東京書籍	光村図書
4	地 図	帝国書院	東京書籍
5	算 数	東京書籍	学校図書
6	理 科	教育出版	東京書籍
7	生 活	東京書籍	教育出版
8	音 楽	教育出版	教育芸術社
9	図画工作	日本文教出版	開隆堂出版
10	家 庭	開隆堂出版	東京書籍
11	保 健	大日本図書	学研教育みらい